

「今を大切に」

— 子供の心が見えるお母さんに —



2009年7月3日

講師：上田信子（当園副園長）

「今を大切に」 — 子供の心が見えるお母さんに —

今日は、この園の保育をご存じない方もおられますので、簡単に園の概要からお話させて頂きたく思います。

この幼稚園の正式名は、日本^{キリスト}基督教団堺教会附属堺金岡幼稚園といます。教会が伝道のために設置している幼稚園なのです。

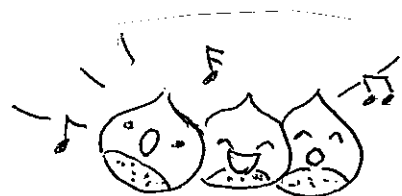
園長は、当教会の牧師であることを教会が決めておりまして、現在は石黒悦雄牧師が園長であります。

子供たちは、神様から私たちに託されている大事な預かりものとして、神様が私たちを愛して下さるその愛で、子供たちを愛していく、という思いで保育しております。保育の特徴といえば、毎日礼拝すること、そして、遊びを大切にしたい自由保育をしている事かと思えます。

平素の保育の流れは、8時45分～9時までに登園します。クラスでは、先生や友達に「おはよう!!」と挨拶をかわし合い、今日のシールをシール帳に貼ります。先生は子どもと会話をしながら視診(健康チェック)をします。その後はコップ・タオル・弁当を所定の場所に置き、リュックをかけると朝のお支度完了です。簡単なようですが、年少組にとって、それがなかなか大変なことです。どんなに促しても、徹底してしない子供もいます。

支度さえ終われば遊び始めます。だだ、園庭か室内いずれかは決めていきます。自由活動の時間はいずれも1時間30分位とりますが、年少組は徐々に長くしていき、5月頃には同じようにたっぷり遊びます。充分遊んだ後はお片付けもスムーズです。手足を洗い、着替えもしてさっぱりしたところで礼拝。その後は季節のうたやリズムゲーム等、その日のカリキュラムによって進められます。

一年を通して行事もいろいろありますが、お楽しみ会(生活発表)等をする場合、子供たちが興味をもって遊んでいることや、教師がこれから入れていきたいと思っていることを、子供と一緒に考え話し合っってストーリー化し、整理していきます。子供たちがやりたい気持ちを大事に、無理なく楽しくできるように、そして出来るだけ平素の自由活動の時間を損なうことのないように考えています。



運動会を見ると、その園がわかるといいます。入場行進は「足を上げてしっかり手をふって格好よく歩こうね。」と言うのですが、とても無理な事です。応援の人々の座っている中を初めて歩くのですから、嬉しくて仕方のない子、すっかりはにかんでしまう子、様々です。いつも自由な服装ですから、観ている方も誰が誰かすぐ分かるのです。競技は、次のプログラムのために入場門に並んで待つことはせず、自分の席でしっかり応援して・・・と、のんびり、ゆっくりプログラムは進みます。

運動会が終わってからも、しばらくは楽しかったリレーや玉入れなど、再現しています。何をするにも、主体は子供たちなのです。

礼拝

子供たちの殆どの家庭はクリスチャンホームではありません。月に一度は誕生日会でホールに集まり、共に礼拝するのですが、毎日の礼拝は、クラスで行います。さんびかをいくつも歌い、聖書のお話も毎回ではないのですが聞き、手を組んで神さまにお祈りします。

私がクラスを持っていた時、朝、登園するや否やかけ寄ってきて、「先生！お母さんが高い熱出してしんどいの。お祈りの時、お母さんのこと、お祈りしてね。」という子どもがいました。

毎朝、事務所から欠席する子どもの報告が届きます。教師は子供たちに休んだ理由を伝えます。自分のしんどかった事と重ね合わせて聴いているのでしょう。それが毎日の事ですから、友達を思いやる優しい心が自然に育っていくのです。

人間の愛には限りがあります。親自身も人を傷つけたり間違っただけをしようともあります。その中であって、神さまの変わらぬ愛に守られているという心の安定は、子供にとってとても大切なことです。

次に、当園で行う自由遊びについて、例をもって話したいと思います。子供たちは0～3才又は4才迄家庭で過ごしてから園に来ますから、スムーズにお母さんから離れられない子どもがいて当然です。育ってきた環境、性格もあり、集団に解け込むのは、すぐには無理なことです。できるだけ早いうちにまず、先生と仲良くなるために家庭訪問を実施します。



私が年少組を担当した時でした。Y君という子がいました。子どもたちが土や水で楽しそうに遊び始めた頃になっても、Y君はそうはいきませんでした。私から片時も離れず、手をつなぐか、スカートの端を持つか、それもぎゅっとつかんでいるのです。お母さんに話すと、「考えられない！」と仰言っていました。Y君は3人兄弟の長男で、二人の弟のお兄さんらしくしっかりしている、と思っていたそうです。私が全クラスの礼拝でお話をする事があったのですが、Y君はその時にも私と一緒に出てきて、終わりまでずっと私と並んで皆の方を向いて立っているのです。他の先生が連れに行くとしがみついてくるので、そのままにしましたが、不思議に他の子供たちは何も言わず話を聴いてくれました。

ある暑い夏の日の事、ホースの先を高く持って園庭に水をまくと、子供達は大喜びでキャーキャーとその下をくぐってはしゃいでおりました。皆、裸足ではねまわっていましたが、Y君は相変わらずソックスをきちんとはいて、私のスカートの端を握って、その様子をじっと見ていました。どろんこで遊んでいた子どもが、その手で私にタッチしてきました。そのどろんこがついたとY君はきれいに洗い落とすまで涙ポロポロなんです。私が「Y君、ここで待っててね。先生暑いから裸足になって水たまりのお風呂に入ってくるから。」と言うと、Y君も靴下を脱いで仕方なくついてきました。この後です。Y君に驚くべき変化がありました。水に足をつけたY君は、思った以上に気持ちよく、楽しかったのでしょう。表情が変わり、自分から“あっちへ行こう、こっちへ”と私の手を引っ張って、いっぱい、ジャボジャボ足を入れました。「服を脱いだら？」と言うと、素直に両手を上げ、シャツになると、今迄何だったのかと思う位いい笑顔になって一人で走り出したのが、もう随分前の事なのに、はっきり覚えています。それからというもの、全く霧が晴れたようになり、色白のY君の身体は、すっかりどろんこで、身も心も解放されたのです。

土や水の自然の恵みは、Y君だけでなく、子供たちの心をなごませてくれるのです。Y君は全てのことにこだわりがなくなり、皆と共に部屋でも大きな声が出て、空箱等で作る構成遊びが好きで、生き生きしているY君を他の先生たちがそっとのぞいていきました。



自由遊びが1時間30分って長すぎるのでは？と言われることがあります。私がこの園に就職する前、独身の時代や主人の転勤に伴って4ヶ所の園に勤めました。殆どが教会附属でキリスト教保育でしたから、どこも共通していました。が、外遊びや部屋の遊び時間はせいぜい30分でした。堺金岡幼稚園も私が来た頃は今ほど長くはとっていませんでした。

当時、卒園記念品としてビデオカメラをいただきました。クラスを持たない私が、よく撮影の係になりました。今のビデオではなく、小さいレンズから一人ずつ焦点を合わせて見ていると、遊びに入って20分頃迄はウロウロしていて遊びが定まらない事がわかりました。30分でお片付けをすると、折角、本格的に遊び始め、これからという時にやめなければならないことになります。しっかり遊び込んで、遊びを徹底する子供は伸びるといわれています。今の子供は、遊べない、遊ばない、と言われていますが、さすが当園の子供たちは2~3人寄れば、どんなところでも本当によく遊べるのには、感心してしまいます。

そもそも遊びはさせられるものではなく、自発的な行為です。友達とかかわり沢山遊び、互いに育ち合って欲しいと思います。戻る事の出来ないこの子供時代の遊びには、生きた学習が沢山詰まっているのです。その例として、少しお話してみたいと思います。

外遊びでは全クラスが一緒に出る事が多いのですが、小さい子供は大きい子供のしている事をじっと興味深く見えています。

やがて、真似てやり始めます。

おだんご作りでは、年長のつるつると光った、しっかり固いきれいなおだんごが何と言っても憧れです。「どうしたら、出来るのだろう？」「作ってみたい！」と意欲はなかなかのものです。今出来ている子供もかつては、いろいろ挑戦を重ね、やっと出来上がった根気の結晶です。初めは小さな器に土を入れて、ひっくり返しても形にならなかったのが、雨上がりにやってみると出来た。しめった土なら、丸く固まる事を知る。ではお天気であっても水があれば固まる。と、今度は、水の量を調整していくことを学習していくの

です。おだんご作りには、あの小さな可愛い手の平がちょうど具合がよいのでしょうか。固く何度も丸くしながら、表面がなめらかになったら、サラ砂と子供たちが呼んでいる乾いた白い砂をウサギ小屋のコンクリートのから寄せ集めて、最後にそっと振りかけています。出来



たおだんごを、いとおしそうに大事に持って見せに来てくれる顔は自慢気です。「さわってもいいよ。」と言いますが、「こわさないでね。」と目が言っています。しっかり固いおだんご、「凄いい！」と言うと、何とも嬉しそうな顔をしてくれます。



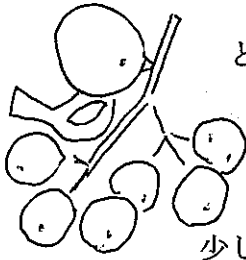
その日に作ったおだんごは大抵自分の靴箱の中に入れていますが、子供が帰った後、植木鉢の横や、木の後ろに隠してあるのを見つけ、ほほえましく思います。でも夜露や雨で折角のおだんごもパカんと崩れてしまったり、靴箱のものも乾燥すると欠けたり割れたりすることも学んでいきます。子供達はがっかりすることもなく、又前向きに作り始め、飽きることなく毎日そのプロセスを楽しんでいる活気に、ただただ脱帽です。

数年前、20年ぶりに卒園児が訪ねてくれました。その子供は卒園と同時に父親の転勤で千葉へ引っ越しました。その後ずっと大学までそこで過ごした彼は、卒業前に関西方面に一人旅でやって来たのです。そして幼い日を過ごした堺に来て、懐かしい幼稚園へと来たのです。「変わってないなあ。」と言いながら、すべり台をすべったり、雲梯をさわったり、かつての自分のクラスやホールを見まわり、そして子供の帰った後のくつ箱の奥にあるおだんごを見つけるや、指をさして「これこれ！このおだんごは僕のルーツだあ！」と大きな声で叫んでいました。久しぶりにおだんごに出会った24才の大学生の嬉しさ一杯の顔は、5才の時の顔と同じでした。

おだんご作りだけでなく、鉄棒、雲梯、なわとび、坂のぼりやのぼり棒とて言えることで、はじめて出来た晴れやかな自信に満ちた顔に出会うのは、何回見ても最高です。

遊びの中で育つ大切なものとして、喧嘩があります。子供達はみんな自己中心ですから、ちょっとした事でトラブルが起きます。自己主張のぶつかり合いで互いにかみ、簡単には引き下がりません。意地を張って口で言い合ったり睨み合ってるかと思うと、いきなり手足が出ます。泣きわめき乍ら、やり合います。周囲の遊んでいた子も手を止めて見えています。

喧嘩をしている本人同士は、口惜しい、悲しい、苦しい気持ちを味わい、時には、負けたと思うと突然走り出し、後ろを向いたまま涙を拭いて目をパチパチさせて、又皆の中に戻ってくる場合があります。危険を思うときは



とっさに止めるのですが、怨みっこなしのこの時代、
とことんして苦しみ痛み、口惜しさを経験して、
経験するからこそそれらの気持ちがわかる子にな
って欲しいと願います。

少し時間が経って忘れた頃、「ごめんな。」「うん、いいよ。」

お互いそのことばを待っていたのでしょうか。当人同士はからりとした気持ちで並んでお弁当を食べたりしています。「介入しないでよかった。」と思う時です。人として大切な協調性、社会性の核なるものが集団であるからこそ育ち合うのです。もし、お母様方が側におられたら、きっと、相手の子供に怪我でもさせたら大変と「喧嘩はダメ、やめなさい。」と分け入ってしまうでしょう。一応治まって、解決できたかのように見えますが、子供にとって、問題は少しも解決していないのです。かえって不満がふくらんでいくばかりです。

すっきりしない時、年長では皆で話し合いの場を持ちます。「どう思う？」と先生がもちかけると、子供たちは口々に○君が、△君が、とか名前を言い出したので、「先生は誰がよいとか悪いとか言ってないよ。」と言うと、「そんな事言われたら私だったらこんな気がする。」とか「そんなに言ったらかわいそうやと思う。」と。丁度居合わせた私は、自分の思いを自由に話せ、二人は皆の前で「ごめんね…」と言い合っているのを見て、「育っている」と嬉しく思いました。

自由は「No」と言うことができます。けれど「No」と言ったことであとで困ることもあるのです。朝の支度をしないで遊んだ子供は手を洗ってもタオルもないし、うがいのコップもまだ転がっている、かばんの中にあるのです。

どろんこ遊びに裸足になれば？と勧めても「いいの。」と靴のまました子供は、ぐっしょりどろんこになり、気持ちの悪い思いのまま帰らなければなりません。こうしたことは何度か繰り返して出来るようになり、自分のものになっていくのです。

こうした子供の成長に、お母さんはどのようにかかわっていけばいいのでしょうか。

何と言っても子供は、今のお母さんが一番です。お母さんに自分の方を向いて貰おうと、わざとお母さんの嫌がる事をしたり言ったり、又、少しのことに泣いたり甘えたりする場合があります。それは誰よりもお母さんが大好きな裏返しと違って間違いありません。お母さんの笑顔は何よりもホッと、嬉しいのです。笑顔は愛されていることを確信するからです。

お母さんは子供を愛している事は当然とっておられるのですが、子供がお母さんをどれ程愛しているかに気づいていない場合があります。励ますつもりで「あなたはダメね。何度言ったらわかるの？」と口癖のように言われて育つと、本当にダメだと思いついて、生きる喜びを失う事もあるのです。

大人が「いや」と思う言葉は、子供もいやなのです。

好きなことばなら何度でもききたい子供です。

「ありがとう!!」「お母さん助かったよ。」

お母さんに心から喜んで貰う時、認めてもらう時、子供にとってどんなに嬉しいことでしょうか。気持ちを言葉やスキンシップで具体的に表してあげてください。

かといって、いつも言っていると、今度は褒められたいためにするのもよくないので、嬉しい時には自然に、素直に言えるのがいいと思います。

子供の誕生日は、特にそのよい機会でしょう。

「お母さんはIちゃんが生まれてきてくれて、本当に嬉しい!!」「神様、Iちゃんを下さって、ありがとう!!」と、心をこめて、ぎゅっと抱きしめてあげてください。子供にとって、ケーキより、ご馳走より、もっと大きなプレゼントでしょう。

友人が、子供を寝かせる時に絵本を読んでやり、ほおずりをして眠った顔と、忙しくて叱りとばして寝かせた時の顔が余りにも違う、寝顔に反省させられる…と、つくづく言っていました。

子供時代を考えるとそう長くはないのです。10年経つと、年長さんなら15、6才です。自立心がぐんぐん育ち、時にはお母さんは不要になる事さえあるのです。

取り戻すことの出来ないこの時期を、どうかよい関係で過ごしていただきたいと願います。



堺金岡幼稚園は市内の園の中でも少数派です。バスも給食もなく、お母さん方にとって都合の悪い園として敬遠されているのかもしれませんが。けれども、この園を選んで下さった方々は「みんなと一緒に安心」という考え方が多い中、「私はここに決めた。」又「うちは要らない、買わない。」と自分の考えがしっかりある方だと思います。何より、子供の成長に最も大切なことは何かと考えておられる方々です。どうかこのような方が一人でも多く入園して下さる事を園は心から待ち望んでおります。

人の一生は、よく木にたとえられます。幼児期は土の下にあり、目に見えない根の部分だと。目には見えないけれど、根は木にとって土台となるものです。根っこがしっかりからみ合っはじめて丈夫な元気な芽を出し、やがて太い幹に成長します。枝には葉が生い茂り、美しい花や実をつけるでしょう。根っこの部分である幼児期を自由な環境で、伸びやかに神さまの愛の中で育つことこそ、何より大事なことだと確信します。

最後に、はじめにお読みしました聖書の箇所をもう一度読みたいと思います。お聞き下さい。

新約聖書 コリント人への第一の手紙3章6節

「わたしは植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である。」

このみことばにありますように、私たち大人に託されているのは、植え、水を注ぐこと、すなわち、子供たちを神さまの愛をもって保育することです。しかし成長させて下さるのは神さまであることを、よくわきまえ、知らねばならないと思います。神さまにおゆだねし、謙虚に子供たちを育てていく者になりたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

